

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 第4回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 平成30年3月13日（火）午前10時から午前11時まで
- 3 開催場所 駅東地域交流センター 多目的ホール
- 4 会議に出席した者
  - （1）委員 小野俊次会長、佐藤美佳副会長、角田フミコ委員、伊藤秀司委員、佐々木義夫委員、佐藤俊幸委員、浅野恵美委員
  - （2）事務局 相原浩子、横山太一、永沼威雄、高橋ゆかり
  - （3）その他 仙台白百合女子大学准教授 志水 田鶴子 氏、宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局長 及川一之 氏
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別  
議題
  - （1）報告
    - 第2回宮城発これからの福祉を考える全国セミナーについて
    - ファシリテーション研修について
    - 第3次美里町地域福祉活動計画策定委員会の進捗状況について
    - 生活支援コーディネーターの活動報告
    - 前回の振り返り（第3回協議会・編集会議）
  - （2）協議事項
    - 地域資源の発掘「おげんきですか。（第2号）」を例に検討
    - 宝物の見える化・見せる化「お茶っこ会だよ！全員集合！！」  
～わたしの地域の支え合い活動～開催に向けて
    - 今年度の振り返り
      - 平成29年度美里町生活支援体制整備協議会事業報告
      - 来年度に向けて
        - 平成30年度美里町生活支援体制整備協議会推進について

会議の公開・非公開の別  
公開

6 非公開の理由

7 傍聴人の人数  
0人

8 会議資料  
別紙のとおり

9 会議の概要

(1) 議題の審議結果又は今後の対応

・ 支え合い情報紙「おげんきですか。」を2回発行し、支え合いの地域づくりについて地域資源と共に啓発できたため、来年度も継続していく。

・ 1年間の活動や研修等から、生活支援コーディネーターと協議会の役割については徐々に理解できるようになったが、町としての方向性やビジョンを明確にする必要がある。

・ 地域内で支え合う関係やその人らしい役割があり、高齢期になっても自分らしく暮らせる地域社会になるよう協議会として地域の現状と課題把握、地域づくりに向けた啓発を進めていく。また、今後も地域の様々な集まりの場への訪問を通して地域資源の把握をすると共に、地域の情報収集も行い、地域別基礎情報一覧の作成に取り組んでいく。

( 2 ) 詳細な意見

高橋	定刻の時間となりましたので、第 4 回美里町生活支援体制整備協議会を開催します。本日は、仙台白百合女子大学准教授の志水先生と宮城県社会福祉協議会の及川さんにもご同席頂きます。開会の挨拶を小野会長よりいただきしたいと思います。
小野会長	今年度最後の協議会となっておりますので、活発なご意見をお願い致します。よろしくお願い致します。
高橋	それでは、次第 2 . 署名委員の選出ですが、こういった選出方法にするか、みなさんにお計りしたいと思います。
一同	事務局一任
高橋	それでは、佐々木義夫委員と佐藤美佳委員をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
一同	賛成
高橋	よろしくお願い致します。次に、次第 3 . 報告に入ります。( 1 ) 第 2 回宮城発これからの福祉を考える全国セミナーについて、角田委員より報告をお願いします。
角田委員	当日の参加者が社協・行政など公的な方が多く、私のような一般の方は少なかったように感じました。各市町村の生活支援体制整備協議体も、一般住民の代表が参加している協議体が少ないように感じました。県内を 4 圏域に分けて、各市町村における進捗状況の報告があり参考になりました。他県からの参加者もいたため、全国で必死になって進めている事業であることを改めて気づきました。今まで何度も研修に参加して、地域の縁や今あるものを大事にして、見える化して、共有するというループを重ねていくことが必要なのは理解できましたが、将来的に何を目指しているのかがわからないので、目指すものが明確になっていないなという実感です。
高橋	ありがとうございました。目指すビジョンが見えないと話し合いもなかなか進みませんよね。
角田委員	こうありがたい、そのためにはこれをしなくてはいけないというのは分かるのですが、地域として、町としての展望がないと難しいと思います。
浅野委員	その先のビジョンを、役場と社協、そして住民のみなさんと一緒に明確化し、共有していかないとだめですよ。角田委員さんがおっしゃる通り、わたしたちも同じように感じていました。
高橋	今後も話し合いを繰り返し、一緒に明確にしていく必要がありますね。続いて報告( 2 ) ファシリテーション研修について報告します。

	<p>福祉事業所等の職場内での事例検討や会議、打合せなどで、参加者の意見やアイデアがスムーズに出されるような話し合いの促進役としてのファシリテーターの機能と役割を学びました。</p> <p>講師には、一般社団法人ウェルビーデザインの前理事長篠原辰二さんをお招きしました。ファシリテーションの「場をデザインする」「対人関係を生み出すこと」「構造化すること」「合意形成を促すこと」の四つのスキルを学び、協議会からは角田委員さんにご参加いただきました。ご質問等はありませんか。</p>
佐々木委員	何人くらい参加しましたか。
浅野委員	参加者は20人程度でした。地域包括支援センターや福祉事業所などからご参加いただきました。職員の話合いの場に、ファシリテーションのスキルを持ってもらうねらいで開催しました。
高橋	報告(3)第3次美里町地域福祉活動計画策定委員会の進捗状況につきまして、永沼より説明します。
永沼	<p>それでは、資料の4ページ目から説明いたします。第3次美里町地域福祉活動計画策定委員会において、生活支援体制整備協議会委員としては佐々木義夫委員にご協力をいただいております。また、本日出席の委員のうち、小野会長は社協理事、角田委員は社協評議員という立場から協力をいただいておりますが、改めてご説明させていただきます。</p> <p>本資料4ページに平成29年度の進捗状況と平成30年度の予定を記載しております。2年をかけて策定するため、平成29年度は様々な立場の方々から意見を頂戴しつつ、現状と課題の把握や第2次計画の評価を進めてきました。その開催状況が、上段になっております。</p> <p>平成30年度の予定については、第3回の策定委員会から始まって、平成31年1月には町社協会長に計画書答申という予定で進めていきます。策定委員が32名と多人数なため、目標ごとに分かれた部会により協議を進めています。専門職による多職種連携ワーキングも生活支援体制整備協議会の専門職部会と併せて地域福祉活動計画と連動させて動き始めているところです。</p> <p>ただ、今年度、多職種連携ワーキングの開催は1回でした。来年度以降は、地域福祉活動計画の策定委員会部会に入ることや、単独での開催も視野に生活支援体制整備協議会と連動させて進めたいと思います。5ページ目が第3次地域福祉活動計画策定委員会と生活支援体制整備協議会の体系図イメージを載せております。地域福祉活動計画策定委員会は今年度2回開催し、4つの部会もそれぞれ3回ずつ開催</p>

しています。多職種連携ワーキングは体制整備協議会とも連動しながら1回開催しました。生活支援体制整備の住民部会は、地域福祉力UP情報交換会という地区社協ごとに開催するもので、今年度は4エリアで実施しております。また、地区社協連絡協議会という16地区社協の会長と副会長が集まる会議も行っています。策定委員会や部会全体を、このような形でイメージしながら計画策定を行ってきたという図となります。

6ページ以降が、各部会の意見をまとめたものです。先月2月9日にも2回目の策定委員会全体会を開催して委員32名で共有しました。地域のなかで住民の孤立が潜在化しており、孤立を無くしていくためにはどうしたらいいかという意見が多く出されました。

孤立という課題を解決していくためには、お茶飲み会やそれ以外の集まり等が今以上に必要ではないかという意見や、地域の仕組みや制度も必要なのではないかという意見もありました。また、社会福祉協議会で行っている総合相談事業においても、高齢者だけではなく稼働世代の相談件数も増加していることから、年代を問わない相談体制の整備や、連携・協働が必要ではないかという意見があります。

地域づくりの面でも福祉教育については、子どもに限らず大人も含めた地域全体への福祉教育を広げるために、いろいろな媒体を使って広報啓発をしていくことが必要という意見がありました。また、「福祉」についてのイメージが曖昧なため、簡単に誰にでも理解しやすいかたちで説明ができるようにして、地域全体に広がると良いという意見も挙がりました。

地域のボランティア活動や地域活動については、社会情勢の変化に伴ってボランティアの状況も変わってきているため、新しいボランティアの形も必要ではないかという意見がありました。地域社会の課題解決のためには、事業所や制度だけでの対応では難しい状況であるため、ますます情報の共有や連携・協働が必要だという意見をいただいております。来年度、一年間かけて協議し1月には答申という形で進めていきたいと思っております。生活支援体制整備協議会にはその都度、報告していきたいと思っております。

高橋

報告(4)生活支援コーディネーターの活動報告をさせていただきます。14ページをご覧ください。平成30年1月から3月までの活動内容を紹介します。「おげんきですか。」第2号にも掲載しました、駒米行政区の理容星について説明します。訪問したのは1月28日です。主催者はなく任意の集まりです。目的は、相互の健康確認、情報

	<p>交換、地域のパトロールです。何気ない集まりでの何気ない会話から「地域に男性が集まれる場が少ない」という課題が上がり、その課題に対して、自分たちのできることを形にしようと動き出していました。この春には、新しく「男爵クラブ」という男性の集いの場が始まるそうです。普段から顔を合わせることで、自然に地域の課題を話しあえていることを学びました。</p> <p>続いて、15ページです。青生第一常盤会のパソコン教室です。こちらも「おげんきですか。」に掲載しました。訪問したのは1月30日です。主催は青生第一常盤会です。パソコンの学習、老人クラブの資料作成などを行っています。毎週火曜日、青生白寿館で活動しています。青生第一常盤会の会員だけでなく、他の行政区や隣町からも参加されていました。先生はいますが、それぞれが得意分野を生かしながら活動していて、みなさんのフラットな関係が印象的でした。「それぞれの過去は宝だから、それぞれの特技を生かしつつ活動していきたい」という声があり、一人ひとりが役割を持って活動することが、生きがいになっていると感じました。</p> <p>続いて、「ふれあいスマイルクラブ」についてです。こちらは荻塚で行われている集いの場です。主催者はなく任意の集まりです。介護予防を目的に毎月第一木曜日、荻塚公会堂で活動されています。この日は雨で参加者は5名と少数でした。会員の一人が、美里町社協で行われている「みさと元気塾」を受講されている方で、元気塾で学んだことを地域のなかで生かせないかと考えていた時、荻塚の公会堂が新築され、「この場所を使わない手はない」と思ったそうです。元気塾で学んだことを一人だけのものにせず、地域の中で広げている。一人だけの元気ではなく、地域の元気にしていることを学びました。</p>
浅野委員	<p>生活支援コーディネーターは、ご紹介した三つの取組みだけ取材したわけではなく、今日はピックアップしてご紹介させて頂きました。また、男爵クラブの1回目は3月に行われるようです。老人クラブの活動は停滞しているようですが、気の合う人たちが集まって、こうして活動をしているのはいいですね。スマイルクラブも元気塾の受講生が自分の習ったことを地域で教えていて、取組みは素晴らしいと思いました。</p>
高橋	<p>はい。スマイルクラブの介護予防体操は本格的でした。元気塾で先生が教えていたことを忠実に行っていました。</p>
佐々木委員	<p>こういう取組みが広がっていくといいですね。</p>
浅野委員	<p>元気塾を受講している人は、自分の健康維持や介護予防のために受</p>

	<p>講しましたが、元気塾での良い経験を誰かに伝えたいという思いが生まれ、公会堂ができたことで活動を始めました。生活支援コーディネーターが取り上げたことで、また活動に拍車がかかるといいですね。やはり、生活支援コーディネーターが取材に行くと、「こんな小さい集まりも取り上げてくれるの？」と言われ、取り上げたことで、その後の活動が活発になっています。行政区や地区社協などのオフィシャルな集まりもいいですが、こういった小さい活動にも目を向けるといいですね。</p>
小野会長	美里町にも、様々な活動があるのでしょうか。
佐々木委員	小さい活動がいろいろありますね。活動を情報収集・整理するだけでなく、集いの活動状況のある程度把握できると広がり生まれたり、停滞していれば改善策を提案したりして応援できますよね。
浅野委員	他市町村では、サロンの数をカウントしていますが、美里町ではしていません。経過を見守っていきたいです。
佐々木委員	状況把握は必要ですね。
小野会長	その反面、そっとしておくのも大事なときもありますね。
一同	そうですね。
小野会長	規約もなく、解散してしまう小さいグループもあると思います。でも、こういう小さいグループを大事にしていきたいですね。
高橋	<p>引き続き活動していきたいと思いますので、みなさんも、地域の情報などありましたら教えてください。よろしくお願いします。それでは、(5)前回の振り返りをさせていただきます。開催内容につきましては、地域支え合い情報誌「おげんきですか。」創刊号の反響と次号に向けて協議していただきました。まず、反響についてですが、写真のインパクトはあったようです。また、内容についてはあまり聞かれませんでしたでしたが、掲載された団体の周囲には意識の変化があったようです。例えば、ミニストップの店員さんがイトインコーナーに広報誌の切り抜きを貼ってくれました。</p> <p>次号の内容については、地域の宝物紹介コーナーは毎号掲載します。住民と専門職と一緒に地域づくりをするため、地域の宝物だけでなく、福祉事業所の専門職も宝物ということで、第2号では美里町地域包括支援センターを紹介しました。続きまして、宝物の見える化・見せる化として、地域の宝物発表会の開催に向けて、開催目的を話し合いました。出演者についても話し合いを行いました。地域別基礎情報一覧については、フォーマットをみなさんに確認していただいて、生活保護世帯数のほかに、制度の狭間の人数も把握できたら良いという声も</p>

	<p>ありましたので、フォーマットを少し変えていきたいと思います。編集会議につきましては、2月8日(木)午前10時に開催し、2月8日現在での進捗状況の報告をして、委員の方々に編集・校正いただき2月13日に入稿、3月1日に無事発行となりました。ご協力ありがとうございました。こちらについて質問等はありませんか。</p>
一同	なし
高橋	<p>それでは、次第4.協議事項に入ります。ここから小野会長に進行を変えます。</p>
小野会長	<p>協議事項は4つあります。地域資源の発掘「おげんきですか。第2号」を例に検討ということで、事務局よりお願いします。</p>
高橋	<p>第2号の最後のページに、灯油入れや雪かきなど、困っていることはありませんかという記事を載せました。これを見た住民の方から事務局に電話をいただきました。詳細について、永沼より説明します。</p>
永沼	<p>先週初めに一人暮らしの女性高齢者より連絡がありました。灯油缶から灯油をストーブに入れる作業に困っているそうです。その方の暮らしぶりや、生活状況をお聞きしました。隣近所とはそれほど付き合いはなく、身体状況的にも困りごとが多くなってきているようでした。「ボランティアに来てもらい、灯油を入れてもらうことはできるのですか?」というのが主訴でした。</p> <p>ボランティアセンターに登録しているボランティアが多いわけではないので、知っている人が対応した方がよいか聞くと、知っている人は嫌だと言われました。また、民生委員と相談して良いかと聞くと、それも知られるのが嫌だと言われました。誰にも知られずに対応するとなれば、介護等サービスでの対応になると説明し、地域包括支援センターに連絡しました。ご本人のニーズがどこにあるのか、お金で解決したい部分なのか、それともご近所の付き合いで手伝ってくれる人を求めているのかどうか、どのように解決したいと思っているかも把握していかなければいけないと思います。</p>
浅野委員	<p>新しいサービス創出というのもあるでしょうが、社協にはボランティアセンターがあるので、そういうところでニーズキャッチできるお手伝いがあるというのが一つと、あとは各事業所のサービスと力を合わせて対応できればいいと思います。そもそも今回の方は、なぜ電話をくださったのかと考えたら、お父さんが亡くなられたばかりで、介護サービスが申請中で、この後、どんなサービスが受けられるのか、どの程度使えるのかまだ分からない状況だったと思います。包括支援センターが関わって、ケアマネジャーが決まれば、安心して暮らせる</p>



	よくなるのかと思います。制度による対応になるまでの、心の揺らぎというものを、社協では感じました。
佐々木委員	その方の住んでいる地域性はこういったところですか？
永沼	町1区、2区なので昔からのところですね。
角田委員	隣近所に手伝ってもらいたくないという気持ち。手伝ってもらったら、何か返さなければいけないという考えがあるのかもしれませんがね。昔からの付き合いがあるからこそ、ご近所には助けを求めたくない人は多いかもしれません。
小野会長	専門職のページでは次は何を取り上げるのですか。
佐藤委員	次の号ではJAふれ愛福祉センターを紹介させていただきます。
高橋	福祉事業所の各専門機関をバトンでつなぎます。
小野会長	それでは 宝物の見える化・見せる化について、事務局お願いします。
高橋	<p>「お茶っこ会だよ！全員集合！～わたしの地域の支え合い活動～」のタイムスケジュールについて説明します。本日午後1時開場、1時半から開会する予定です。2部構成です。1部は志水先生から「目からウロコ！お茶っこ会は地域づくり?!」という題目で、お茶っこ会がもたらす効果と地域づくりについてお話をいただきます。</p> <p>2部は公演です。「ハイリヨする町・ハイジョする町」ということで、主催団体が寸劇を通して話題提供します。最後にライブトークということで、三つのお茶っこ会のみなさんをお招きし、活動の内容やポイントを紹介する予定です。この後、11時から1部2部をリハーサルでやってみます。12時に発表者の方が来館します。昼食後にライブトークの打合せをしますので、協議会の委員の皆さんも同席ください。1時受付開始となります。このとき、靴袋の配布と誘導を社協職員と委員の皆様で協力してやっていきたいと思います。1時半開会ということで、司会は浅野委員、開会あいさつ、趣旨説明を小野会長にお願いします。講師の紹介は私がします。</p> <p>13時40分から基調講演ということで、志水先生からお話をいただきます。14時10分、ステージの場面転換を社協職員が行います。寸劇に出る方々は倉庫で着替えをお願いします。みなさんよろしくをお願いします。そして最後に出演者の自己紹介をしますので、前に出ていただき、小道具は社協職員が下げます。</p> <p>続きまして、14時35分から70分間、ライブトークを行います。コーディネーターは志水先生です。1番目に登壇いただくのは、町二区のボランティアあじさいの黒沢清喜さん。2番目がほっとカフェリ</p>

	<p>らっくすの伊藤守さん、こちらは大口行政区の区長さんになります。最後が、中の組友の会の千葉美知代さんと末永輝子さんに出演していただきます。1グループ、登壇等含めて20分、これを3回行います。最後に志水先生からまとめと講評をいただきます。そして閉会のあいさつを佐藤美佳委員にお願いします。</p>
佐藤委員	何人くらい来場予定ですか？
高橋	100人程度は来場予定です。
小野会長	続きまして今年度の振り返りについてお願いします。
高橋	<p>平成29年度美里町生活支援体制整備協議会の事業報告をします。運営について、第1回、第2回ともに委員全員に参加していただきました。第3回には小野会長、佐藤美佳副会長、角田委員、佐々木委員、伊藤委員に出席いただきました。第4回は本日となります。啓発事業としては、「お茶っこ会だよ！全員集合！！」を開催する予定となっております。</p> <p>また、情報誌の発行ということで、「おげんきですか。」創刊号と第2号を発行しました。編集会議では、創刊号の際には小野会長、角田委員、伊藤委員、佐々木委員、佐藤俊幸委員、第2号の際には小野会長、佐藤美佳副会長、角田委員、伊藤委員、佐々木委員、佐藤俊幸委員にご参加いただきました。</p> <p>地域福祉力UP情報交換会には、8月に行われた北浦地区に小野会長と角田委員、中埴地区に角田委員とJAの千葉さん、9月の不動堂地区には小野会長、角田委員に参加いただきました。続きまして、協議会委員等の研修・情報交換会については、7月26日の登米市生活支援体制整備事業研修視察に小野会長、角田委員、佐々木委員、伊藤委員に出席いただきました。登米市生活支援体制整備事業迫圏域協議体の方々が11月29日、視察に来た際には小野会長と佐々木委員に出席いただきました。</p> <p>平成30年1月12日には大和町高齢者支え合い研修会「おらほのお宝発表会」視察研修に、角田委員、佐々木委員、伊藤委員が出席されました。続きまして「第2回宮城発これからの福祉を考える全国セミナー」には、角田委員が出席されました。生活支援コーディネーター養成研修・応用講座には、6月の研修 初級研修（制度の理解）に、佐藤美佳副会長と佐々木委員、角田委員に出席いただきました。以上、一年間の振り返りをさせていただきました。</p>
一同	ご苦労さまでした。
浅野委員	研修や情報交換会などに委員のみなさんに参加していただき、そし

	て協議会の活動を支えていただき、ありがとうございました。
佐々木委員	今日の午後からのお茶っこの会の特集号を、「おげんきですか。」で取り上げることもよさそうですね。
浅野委員	いいですね。予算の兼ね合いもありますので検討してみます。
小野会長	それでは「来年度に向けて」を横山さんよりお願いします。
横山技術主査	<p>それでは「来年度に向けて」についてですが、平成27年度から立ち上げてきて、社協の方にお願ひし、本格的に本年度から少しずつ動き始めてきました。事業自体、なかなかゴールがみえにくく、評価をどこにしようか、悩ましいところが多いところはあるのですが、一年やってみて、委員の皆様と様々なお話ができるようになり、地域支え合い情報誌も作ることができました。今後も支え合いが広まる、あるいは支え合いが続くといったところを目指していきたいです。</p> <p>委員については3月末でいったん任期は終了しますが、来年度もこのメンバーで、話し合いを続けて行けたらと思っています。具体的な予定はまたみなさんとお話していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。委員の就任についてはまた改めてお願ひします。</p>
小野会長	委員の方々の任期は3月いっぱい終わるということで、よろしいですか。
横山技術主査	はい。任期は終了しますが、4月からもまた改めて、お願ひしたいと考えております。
小野会長	この一年を振り返ると、生活支援コーディネーターの高橋さんを6月に迎え、町の地域包括支援センターと美里町社協がタイアップして広報誌「おげんきですか。」を2号目まで発行するなど、多くの活動が見られました。目に見える活動をしてきたという実感があります。こうした活動は、慌てる必要はまったくないので、これから5年後、10年後に向けて、すぐ結果が見えなくても、みんなで手を取り合い地道に続けていきましょう。それでは時間となりましたので、志水先生から一言お願ひします。
志水先生	今日はお招きしていただき、ありがとうございます。協議会にはいろいろなところで参加させていただいています。美里町は資料をきちり作っているところが、すごいなという印象を受けました。そしてチームワークの良さが素晴らしいです。率直に意見を言えたり、お願ひしたいことを頼めたりする関係性を育むというのが、協議会の一番の目的です。小野会長がおっしゃったとおり、10年後を見据えてどうするかというところを、協議会で協議し、理解して、それぞれでまた分担しながら何をしていくかを相談していく。これが美里町の強み

	<p>だと強く思いました。行政の皆さんも、この事業のことを理解しているという印象もあるし、バックアップする体制がある。ぜひ次年度もこのメンバーで芽生えた関係を大きく育てていくようにしていただければ、県内でも『美里町を真似すればいいんだ』ということがいろいろ出てくると思っています。たまにこのような活動を、ビデオに撮るのもいいかと思えます。協議会の様子をビデオに撮り、新しく参加する人に『こういった楽しいことをやっているから、気を張ることはない』と誘う方法もあります。言葉だけだとなかなか伝わらなかったりします。和気藹々とやっていらっしゃるので、残しておいてもいいと思えました。ありがとうございます。</p>
小野会長	<p>それでは、及川さんから一言お願いします。</p>
及川さん	<p>私は宮城県の支え合いを進める事務局におりまして、このようなお話やみなさんの雰囲気などを他の市町村へお伝えするのが主な役割です。先生方のアドバイスと、この事業に関する研修や情報提供を合わせて市町村の取組みを支援するということなので、今日の素晴らしい協議会の内容を他の市町村へお伝えしていきたいと思えます。どうもありがとうございます。</p>
小野会長	<p>ありがとうございます。それでは時間となりましたので、閉会させていただきます。佐藤副会長、閉会のあいさつをお願いします。</p>
佐藤副会長	<p>今日は大変お疲れ様でした。4回目ということで、今年度最後でした。今、志水先生からこの関係性を育ててほしいというお言葉もいただきました。今年度の活動を糧に、また来年度、ステップアップできたらいいなと思えます。また午後からも、チームワークのいいところを、地域の皆さんにお示しできたらと思えます。どうぞよろしくお願い致します。お疲れ様でした。</p>

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

年 月 日

委 員 \_\_\_\_\_

委 員 \_\_\_\_\_